

東 だ よ り

武蔵野東学園広報 第57号

2021年 3月 12日発行

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2-1-10

TEL 0422-52-2211 (代) FAX 0422-53-1090

<https://www.musashino-higashi.org>

コロナ禍の一年を振り返る

理事長 寺田 欣司

昨年来のコロナ感染問題は多くの児童生徒を預かる学校を悩ませるものでした。特に初期のころは新種のウイルスの振る舞いがわからず、専門家も行政も的確な行動指針を打ち出せず、加えて不必要に不安を煽り立てるマスコミ報道もあって、国民の不安が掻き立てられました。

コロナウイルスは飛沫感染と接触感染で拡散することは比較的早くから解明されていました。この二つへの基本的対策はマスクの着用と手洗いの励行ですが、この二つは日本国民には体に染みついた生活習慣ですから、欧米諸国のような深刻な問題にはなりません。しかし学校教育の現場は典型的な「三密社会」です。そのため政府は昨年二月末全学校に向けて休校要請をしました。

しかし東学園はその要請に完全には従いませんでした。というのは早い機会に、ある大学の研究室が、次亜塩素酸水はコロナウイルスの殺菌に効果的であることを実証したと発表したからです。ただ次亜塩素酸水の殺菌効果は二週間程度ですので、市販品に頼るのは危険です。(これが政府が次亜塩素酸水の利用を奨励しなかった理由の一つのようです)

ところが東学園のみならず多くの学校は、インフルエンザ感染対策用に「次亜塩素酸水生成装置」を持っています。この装置に水道水を入れ電気分解すれば、わずかな電気代で、無限に次亜塩素酸水を作り続けることができます。これまでもインフルエンザが流行する都度、次亜塩素酸水は学校設備の消毒に活躍してきました。

教師の指導を受けマスクを着用し手洗いを励行する児童生徒たち、次亜塩素酸水による学校設備の徹底した消毒、加えて児童生徒の登校時の体温測定装置の活用、この三つがあれば学校の中は、完ぺきとは言えないまでも公共の場よりもはるかに安全な空間となります。休校中も適宜自由登校日を設定しましたし、入学式、卒業式、運動会、発表会など、多数の保護者が学校に集まる諸行事では、客席の間隔を開け、窓を全開にして換気に努め、式次第を簡素化して所要時間を縮めるなどの対策を加えてすべて実施しました。在宅学習用の授業のネット配信も、教師たちが一丸となって取り組んだおかげで、大変好評でした。

このように東学園のコロナ感染対策は一貫して「細心かつ大胆」を通したのです。唯一残念だったのはスキー教室、修学旅行など外部の宿泊施設を利用する行事が、例年の通りには実行できなかったことです。

東学園はマスコミ報道に踊らされず、インターネットで検索し信頼に足る専門家の見解を読み解いてそれを判断基準とし、児童生徒そして保護者の視点を念頭に、学校活動の在り方を追求してきました。コロナ問題はまだまだ続きそうです。引き続き「細心かつ大胆」に対応してゆきます。

運動会・園まつり・発表会

一年を通して行われる様々な行事。今年は感染症予防の対応もあり、あらためて行事や活動の在り方を問い直し、その取り組み方や実施について検討を重ねました。実施にあたっては、感染症予防へ細心の注意をはらい、ICT機器の活用や、保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、子供たちの成長の機会となるように工夫して取り組んできました。



運動会

11月の園まつりは、56周年を迎えた創立記念式典をICT機器を活用して、ホールから保育室そして第一幼稚園を放送やネット配信で結び、園児全員で幼稚園の誕生日をお祝いしました。また、今年は分散しての作品見学となりましたが、年少さん年中さんの一人一人が思いを込めて作り上げた作品や、様々な仕掛けが盛り込まれた年長の大きな作品を、ご家族一緒に時間をかけて見学することができました。保護者の皆様にも園まつりを通した子供の育ちを理解していただく大事な機会になりました。

また、見学の最後には背丈よりおおきなジャイアントガラポンを回して「富くじ(ハズレなし)」をしたり、有志のお父様制作のオリジナル缶バッジやおみやげをもらったりして、思い出深い行事になりました。



発表会

1月末の発表会は、2日間3部に分けて、プログラムや作品の構成も密にならない工夫をして実施しました。発表会に向けて、それぞれがなりたい自分に向かって毎日コツコツと頑張り、大好きなご家族の皆様に見てもらうことを楽しみにして当日を迎えました。

舞台上の間隔を十分にとったことで、一生懸命表現している子供たちの姿が客席の保護者の皆様にもよく見えることにもなり、一人一人の成長がより一層伝わる機会になりました。行事における保育や、実施にあたってみんなで考え工夫したことが、子供たちの育ちにつながる貴重な経験となり、大成功の発表会になりました。

子供たちが作る豆まき

124年ぶりという2月2日の節分。今年は感染症予防と豆の誤嚥防止の観点から、やり方を工夫しながら実施しました。

節分の時期、紙芝居や絵本で節分のお話に触れて「どうして鬼が来るの?」「なんで豆をまくの?」と、節分あれこれを子供たちと一緒に話し合いました。そして、表情豊かで立体的な鬼のお面を作ったり、新聞



紙を丸めた豆をたくさん用意したり、的当てのような退治される鬼がいっぱい登場したり、折しも今年は鬼滅ブームもあって、子供たちのアイデア溢れる豆まきが繰り広げられました。

幼稚園



ICT機器の活用／お誕生日会

5月に予定されていた運動会は9月に延期し、学年ごとに分散して実施しました。年少さんの可愛いまねっこ体操や年中・年長のダンス、そして玉入れやかけっこ等、今年も運動会を通して、身体を動かすことの楽しさをどの子も感じる事ができました。

年長全員リレーでは、運動会において仲間と話し合い、協力し合い、互いに助け合い励まし合いながら、ゴールを目指して一生懸命に走る、毎年変わらない年長さんの姿があり、今年も確かな成長につながる行事になりました。ゴールした後、順位に関係なく充実した表情をしていた園児たちに、保護者の皆様の温かい拍手がおくられていました。



園まつり

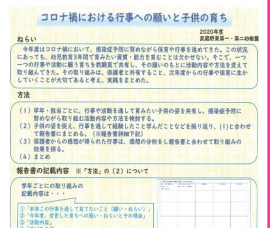
○日本教育新聞(令和3年1月4日発行)に掲載されました

子供の自由な遊びと暮らしを豊かにするための環境の一つとしてデジタルツール(ICT)の活用を進めてきました。幼児期の直接的な体験を大事にすることを前提に、はさみやのり・絵本や図鑑と同じような環境の一つとしてデジタルツールを活用している本園の取り組みが「日本教育新聞1月4日付」に紹介されました。



○今年度の実践報告会は、動画の配信で行いました

今年は、コロナ禍をきっかけに、行事や園生活での取り組みの持つ意味や役割をあらためて考え、育ちに必要な経験が得られるように保育を進めてきました。この取り組みを「コロナ禍における行事への願いと子供の育ち」というテーマで実践報告としてまとめ、動画配信での発表をしました。



小 学 校

第44回発表会

2月16日、17日には、第44回発表会が実施されました。今年度はコロナ禍のため場所を武蔵野東中学校北原記念体育館に変更し、体育とダンスの発表を行いました。16日の午後はCDEクラス、17日の午前にABクラスと、分散しての発表となりました。保護者の方は2名までという人数も制限し、一つの演目を2回ずつ行い席を交代することで学年ごとに見ていただくことができました。

CDEクラス低学年は「バランスボードと竹馬」高学年は「マット運動」1・2年ABクラス男子は「BACHI」3・4年ABクラス男子は「縄跳びとリング」5・6年ABクラス男子は「跳び箱とマット運動」を披露しました。女子のダンスは、1年生「朝日」、2年生「芽ぶき」、3年生「旅立ち」、4年生「誕生」、5年生「雄々しき翼」、6年生「そして明日へ」とそれぞれの学年が“希望”をテーマにした「煌めく希望を集めて」という題目での発表でした。特に最後の演技である6年生女子のダンスでは、コロナ禍の中でできなかったことがたくさんあったけれども、このように発表ができたことはとても嬉しいというメッセージがあり、子どもたちの思いそしてこれからに向けての希望が観客の皆さんに伝わった瞬間でした。両日ともに晴天となり、明るい陽ざしが差し込み子どもたちは練習の成果を発揮することができました。



3年AB男子「縄跳び」

また、演技スペースと観覧席との距離も近く、目の前で子どもたちの頑張りが表情、鼓動を感じることができたり、発表前のウォーミングアップや袖の中での様子もよく見えたりすることでもとは一味違った発表会となりました。今年度は、変更を余儀なくされた行事もたくさんありましたが、形は変われども目標に向かって努力してきたその結果をしっかりと発表できたことは、子どもたちにとって1年間のよいまとめとなりました。



CDE低学年「バランスボード」



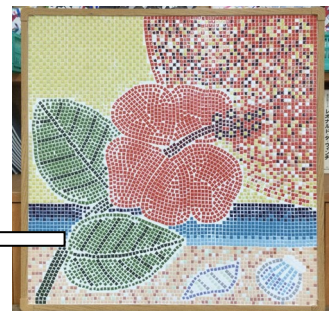
6年AB女子「そして明日へ」

卒業制作

2020年度の卒業制作が完成しました。北原記念館の昇降口、外側の壁面スペースに設置されているこれまでの2年間の作品に追加していくことでコラボする形です。今年度も昨年度に引き続き、磁器製のタイルを使って「太陽」を制作しました。昨年度の太陽にどのようなかたちでつなげていくかを考えながらアイデアスケッチを進め、デザインをしていきました。デザインは6年生児童から募集をして決めています。それぞれにタイトルがつけられており、一昨年第40期生は「みんなの6×93=558年分の光」(右側)、昨年第41期生は「令和の輝き」(左側)です。そして今年度第42期生のタイトルは「咲いた未来」となりました。この作品は、下の左側の部分に設置されます。



2年分の卒業制作



2020年度卒業制作

2020年度 卒業記念品

卒業記念品として電波時計を2ついただきました。校庭正門側の記念館の壁と記念館2階6年生側の洗面所の上の壁に取り付ける予定です。小学校はチャイムが鳴りません。子どもたちは、時計を見ながら時間を意識して日々生活をしているので、生活時間を管理するためにとても役立つと思います。これらの時計を見るたびに卒業生のことも思い出すことでしょう。



中 学 校

友愛会活動 実り多い一年

今年度は友愛会組織の改編を行いました。2か月の休校期間の後、実質的には6月からの活動となり、各委員会の生徒たちにとっては、企画を練り上げる十分な時間がとれない中でのスタートでした。しかし3年生を中心に一人一台配備されたPCや個人アカウントを連絡手段として活用するなどして、新しい方向に舵をとり、いろいろなアイデアを生み出して企画を推進していきました。

スポーツ大会では、スポーツ推進委員会の生徒たちが密にならず接触を避ける形でどんな競技ができるか案を出し合い、ルールを含めて検討を行いました。例えば学年競技では肩を組むようなことはせずに、器具やゴムなどバンドを介して一緒に走るといったリレー競技などを考え、実行に移しました。練習ではいつも負けていたチームが本番で勝つなど、全力を尽くしてのプレーはどの種目も大いに白熱し、勝負にはこだわるけれど結果は爽やかに受け止めて讃えあう気持ちのよい大会となりました。



2年生器具リレー



WEB学園祭ポスター

11月の学園祭では一般公開は取り止め、保護者の方も分散して来校する形での開催とし、探究科や劇など学習発表を中心に行いました。そこで学園祭実行委員会の生徒たちは、革新を意味する“Let's innovate!”をテーマに掲げ、来校できない人にも伝わるものを作ろうという発想から、WEB上に学園祭特設ページを作り、発信・公開するというこれまでになかった形を企画し、PR動画・有志ステージ・学校紹介・展示物紹介など生徒たちの躍動感が伝わるWEB学園祭を実現させました。

他の委員会や有志によるプロジェクトも含め、実り多き一年となりました。

今年度の友愛会は3月に全校で活動報告会を行い、次年度の友愛会へバトンを渡します。

教科横断型コラボ授業

複数の教科担当者がそれぞれの専門性を生かして、一つのテーマに沿って同じ授業の中で一緒に授業を展開する試みを「教科横断型授業(通称“コラボ授業”)」とよんでいます。

例えば文法の違いを比較し、日本語訳や英語訳の適切な表現方法を見つける英語と国語の授業、数学の一次方程式の知識をもとにして理科の物質の密度の理解を深める授業、また季節風の向きが変わるしくみを知った上で、地域の人々の生活や産業の特徴を結びつけて考えることをテーマにした社会科と理科の授業など内容は多彩です。

様々な事象が結びついて理解できたときに学びは本質に迫り、学問的な面白さや探究心につながっていきます。「コラボ授業」を試みる狙いはそこにあります。教員たちは次はどんなコラボができるのか、楽しみつつアイデアを語り合っています。



数学と理科のコラボ授業

2020年度 高校入試 合格状況

15歳という心身ともに成長した時期に、将来を見通し、自分の可能性を追求する受験の機会は、生徒を大きく成長させます。近年の高校受験は、学力伸長を重視して都立の進学指導重点校の人氣は高く、都立の推薦入試ではプレゼンテーション能力や資料の分析力が評価される面接・小論文などが実施されています。学力のみならず、行事の企画や運営、部活動での活躍、探究科や生命科などで考えてきたことを話すなど中学時代の諸活動を総合しての選考は、本校の生徒が得意とするところです。

進学指導をカリキュラムの一環に位置付け、校内指導だけで受験に対応する十分な態勢のもとで、今年も将来の目標に照らしてそれぞれが合格を勝ち取り、進路を決めました。

〔国立〕東京工業大学付属科学技術

〔都立〕日比谷、国立(4名)、西(2名)、戸山、立川、国分寺、武蔵野北

〔私立〕早大高等学院、早大本庄高等学院(3名)

早稲田実業、慶應義塾(3名)、慶応志木(3名)、明治大学明治、国際基督教大学高校、豊島岡女子、青山学院高等部 他

新しい生活様式に沿った行事開催

生徒の体験の場を確保し成長の場を提供したいという思いから、行事を中止するのではなく、どうやって開催するかという前提に立ち取り組んだ半年でした。

◇スポーツ大会 … 6月から9月に変更し、会場も武蔵野総合体育館から学内に変えて無観客で開催。各教室に競技映像を多元的にライブ中継し、競技に参加しない生徒も映像を通して仲間たちの活躍を応援。例年行っている競技から接触のない競技に大幅に変更し、パラリンピックを意識したボッチャも導入。例年通り学年Tシャツも作成。久しぶりの行事に、生徒の笑顔も弾けていました。

◇紫峰祭（学園祭）… 入場者は在校生保護者のみ。例年のように多くのお客様はお迎えできませんでしたが、職業教育の一環としておもてなしの精神を忘れずに応対。毎年大盛況の体育コース、ファッションコース共催でのステージショーは、残念ながらライブではなく映像での上映となったものの、有志の卒業生が編集を手伝ってくれた映像はとても見応えがあり、盛り上がりを見せていました。

◇音楽祭 … 合唱コンクールに替わる音楽イベントとして、会場を三鷹市芸術文化センターから学校に変えて無観客で開催。地下講堂で行われるイベントをライブ中継で教室から応援しました。内容は、クラス対抗ダンスバトル。なりきり指揮者やカラオケ、楽器演奏、イントロ当てクイズなど。生徒のコロナ禍でのリフレッシュの場にもなりました。

どの行事においても、規模を縮小しながらも、生徒自ら工夫し、趣向を凝らしたものとなり、本校の特色の一つである“バディ”で支えあう微笑ましい姿も多く見受けられました。新しい生活様式の中で柔軟に対応する力も身につけてきている様子です。

高等専修学校



スポーツ大会



紫峰祭



音楽祭

農業従事研修（おやてっと隊）

例年は、学年に応じて春の田植え、夏のフルーツの収穫や加工、秋の稲刈りと季節を感じながら農作業ができるのですが、今年は秋に時期をずらして、各学年がそれぞれ研修を積むことができました。毎年南アルプス市の研修でお世話になっている方からは、「武蔵野東が春、夏と来てもらえなかったから、今年の田んぼは大変でした。ほんと、おやてっと



ブドウの選別

（地元の方で農家の繁忙期のお手伝いのこと）ですね！」とのお話もいただき、私たちのおやてっとが、お役に立てていることを実感しました。

コロナ禍で受け入れが厳しい折に、農業従事研修のために温かく迎えていただき、ボランティアでこの研修を支えてくださっている全ての方々に感謝の思いで一杯です。また、自由にアレンジして利用することができる、本学園の宿泊施設である「南アルプスチロル学園」で、安心して校外学習を実施できることは、大変ありがたいことだと感じています。



手作業による稲刈り



機械による稲刈り

「スピーチコンテスト」と「突然スピーチ」

本校では、自己開示と表現力の強化を目的として、「スピーチコンテスト」を実施しています。2月15日には、1年をかけて行われた予選会を勝ち抜いた17名の生徒が決勝大会に臨みました。全員準備をし練習を重ねとても熱く堂々と語ってくれました。テーマは自由ですが、地元愛のこと、学校生活のこと、友達のこと、コロナウイルスのこと、バディのことなど様々でした。優勝した2年生の女子は、落ち着いた口調ながらも聞き手を引き込む力などは、目をみはるものがありました。

一方で、本校には全校生徒の前でスピーチする、もう一つのスピーチタイムがあります。それは、始業式や終業式、長期休み前後に行われる校長講話の際に、校長先生から突然指名され、その場で言い渡されたテーマを舞台上で話をする「突然スピーチ」です。これは、事前準備ができない分、即応力と度胸とコミュニケーション力が必要となります。

実社会に出るとどちらの力も大切です。職業教育を行う学校として、伝える力と話す力の強化に日々取り組んでいます。



スピーチコンテスト
決勝大会



突然スピーチ

保護者勉強会

教育センターは、学園外の子どもたちに向けた東メソッドによる療育施設として知られているとともに、教育研究にも力を入れています。教育、心理、言語など様々な専門性を持ったスタッフが、それぞれの専門領域についての知識や年間の研究成果を共有し、よりよい支援方法の開発のために試行錯誤を重ねています。保護者勉強会は、そうした日々の療育実践を通して学んだことを、家庭でも役立てていただけるよう保護者の皆様に紹介する機会です。通常は年3回開催していますが、今年度は2回の開催となりました。

第1回目の保護者勉強会では、「遊んで学べるSST教材」と「学習・生活スキルを高めるアイデア教材」という2つの研究テーマについて紹介しました。はじめに、SST教室を担当するスタッフから、手に入りやすい市販のカードゲーム等を使って家庭でも手軽にできるソーシャルスキルトレーニングの紹介がありました。想像力や発言方法、あいづちの打ち方といったゲームを楽しむために必要なスキルと、それらを高める方法について実際の指導動画を用いて詳しく解説しました。

2つ目の「学習・生活スキルを高めるアイデア教材」では、100円均一で手に入る素材で作れるアイデア教材の紹介がありました。家庭でのお手伝いや、遊び感覚で楽しく手指の巧緻性を高められる教具、お金や買い物、時間とスケジュール管理、入浴手順、身だしなみ、調理手順の教え方など、あらゆる分野のアイデア教材がスカラールームいっぱい展示されました。「これなら私も作れそう」「この方法ならうちの子に合いそう」といった保護者の声があちらこちらから聞こえてきました。

今回の2つのテーマに共通していたことは、子どもたちのスキルを伸ばすためには、個の特性に合った指導方法を見出し、それを繰り返し行うことが大切であるということでした。これらからもスタッフ一同、分かりやすく子どもたちがやる気の出る教材作りを目指していきたいと思います。第2回は、「ICTを活用した指導」と「描くこと、作ることで楽しいね」という研究テーマについて紹介しました。

ウィンタープログラム

12月26日から3日間、恒例のウィンタープログラムが開催されました。コロナウイルス感染症予防対策を万全に行い、年中から中学生までの61組の受講者を迎えることができました。ウィンタープログラムでの中学生の受け入れは、今年度からの新しい試みとなります。

幼児グループは、初めての受講でお母さんと離れるのが寂しくて泣いてしまう子どももいましたが、家庭から得た事前情報をもとに用意した絵本やおもちゃなどの安心グッズ、またスタッフの明るい雰囲気づくりによってすぐに笑顔になりました。冬やお正月を題材にしたお絵かきや製作を存分に楽しみました。

小学生は、学年ごとに季節を題材にした国語の物語や、算数で図形や時刻表の読み方などを学習しました。学習の進み方が子どもによって違うため、個別課題や視聴覚教材を充実させ、個にしっかりとフォーカスした集団指導が展開できるように準備しました。

中学生は、世界地図、大陸や海の名称、国名や国旗を覚えること、食文化をはじめとした世界の国々の暮らしや文化について学習しました。また、動画やスライドなどの視聴覚教材から、聞き取ったり読み取ったりした情報をコンピュータを使ってまとめる課題にも挑戦しました。音楽や美術、体育なども学年ごとに楽しめる内容を用意し、中学生は美術で自画像製作に取り組みました。高等専修学校の美術科の先生の指導により、どの子どもも表情のある個性的な作品を描くことができました。

保護者講習会では、教育センターOBの保護者による、笑いあり涙ありの子育ての体験談をいただき、参加者から多くの反響が寄せられました。

教育センター



遊んで学べるSST教材の紹介



会場いっぱいに展示されたアイデア教材



数百種類におよぶアイデア教材の数々



幼児 体育活動の様子



中学生美術 「自画像制作」

寄贈者お名前

(2020年9月8日～2021年2月25日)

学園総合

※BMW MINI COOPER 1台【中野杏南様】

※卓球台 1台

【渡部亮様】

寄付金申込者お名前

(2020年9月8日～2021年2月25日)

石井久美子様、遠藤博様、中野杏南様、富士野陽子様

国際ソロプチミスト様、多摩信用金庫 武蔵野支店様、平山モータース様

幼稚園後援会様、小学校後援会様、中学校後援会様、高等専修学校後援会様、匿名1名様

武蔵野東学園をご支援くださる皆様へ

武蔵野東学園では、「混合教育」・「生活療法」の更なる充実のために皆様からのご篤志を随時受け賜っております。学園の実践する様々な教育活動、教育機器・設備ならびに施設の向上や奨学金制度の拡充などに活用させていただきます。ご支援のほどお願い申し上げます。

使途を指定してのご寄付について

学園の教育振興のための一般寄付のほか、幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校、教育センター、山梨友愛寮・チロル学園や奨学金制度へのご寄付など、使途を指定したご寄付も受け賜ります。

税法上の優遇措置について

・個人名義でのご寄付の場合

「税額控除」・「所得控除」という2種類の寄付金控除からどちらかを確定申告時にお選びいただくことが可能です。

・法人名義でのご寄付の場合

「受配者指定寄付金」または「特定公益増進法人に対する寄付金」のどちらかの手続きをしていただくことで、寄付金額を当該事業年度の損金に算入することができます。

①「受配者指定寄付金」としてのご寄付 → 寄付金全額を損金算入できます。

②「特定公益増進法人に対する寄付金」としてのご寄付 → 一定限度額まで損金算入できます。

詳しくは事務局企画広報室(TEL:0422-52-2211)までお問い合わせください。

学校法人武蔵野東学園 奨学金制度について

2014年4月に発足した「学校法人武蔵野東学園奨学金制度」。この奨学金は入学後に学資の支弁が困難となった場合、選考を通じ認定されれば年額 240,000円を納付金から減額する形で交付するものです。

本制度は、学資の支弁が困難な園児・児童・生徒の就学を援助し、将来において社会に有為なる人材を育成することを目的としています。奨学金の種別は返済不要な給付型で、奨学生の認定は原則的に毎年度3名としています。

その手順としては、各園校の教職員が検討をして候補者を学園に推薦。学園は毎年度1月に奨学生選考委員会を開いて翌年度の奨学生を認定します(緊急の対応が必要な場合は別に認定することも可能です)。

この奨学金は同窓会・後援会OB会からのご寄付や連合後援会賛助会員の協賛金を原資としています。

なお、本制度は最低6ヶ月間在籍している園児・児童・生徒を対象としています。

清水常務理事が中央教育審議会 正委員に選任されました

当学園の清水常務理事はこのたび、わが国の学校教育の在り方を方向づける文部科学省所管の中央教育審議会の正委員に選任されました。その背景には東学園の行う「混合教育」が、インクルーシブ教育の模範と認識され、常務理事の建言が今後の日本の教育の在り方における指針となることが期待されていることの現れと考えられます。これは学園にとっても大変名誉なことであり、教職員一同清水常務理事の活躍を大いに期待しております。

募集などのお知らせ

第一・第二幼稚園

2021年度入園 園児募集

今年度はコロナの影響で受け入れ定員に余裕があるため、若干名募集を行います。

※対象：3年保育（2017年4月2日～2018年4月1日生まれ）

※保育見学ご希望の方や入園面接についてのお問い合わせについては、武蔵野東第一幼稚園（0422-51-3640）までご連絡ください。



高等専修学校

高等専修学校 新入生欠員募集・編入学受付のお知らせ

1. 募集人員：総合キャリア学科 若干名
2. 出願及び選考日：3月2日（火）以降随時 受付は、土日祝日を除く9:00～16:00まで。
3. 選考方法：入学準備テスト（国語・数学・英語）、面接（生徒・保護者別に）

※「総合キャリア学科」では、入学時から絵画／陶芸／体育／調理・製菓／ファッション／情報ビジネスの6つの専門コースが設置されており、この中から半期ごとに自由に学びたいコースを選択し、履修することができます。また、2年次の後期からは、大学受験コースが加わります。

※出願にあたっては、必ず学校見学をしていただくようお願いします。

※発表は原則当日、手続きは翌日までと致します。

※学校に登校していない生徒の場合はご相談の上で編入学年を判断いたします。

※入試の問い合わせ及び学校見学申込先は、入試広報室（TEL:0422-54-8611）まで。



教育センター

※下記ご希望の方は、教育センターへお問い合わせください（TEL0422-53-8585）

◇療育プログラム ※随時募集していますので、ご連絡ください

◇季節特別プログラム

- | | | |
|-------------|------------|-----------------------------|
| ●サマープログラム | 対象：年中児～中学生 | 実施日：2021年 8月11日～ 8月15日（5日間） |
| ●ウィンタープログラム | 対象：年中児～中学生 | 実施日：2021年12月26日～12月28日（3日間） |
| ●スプリングプログラム | 対象：年中児～小4年 | 実施日：2022年 3月29日～ 4月 2日（5日間） |

◇支援者のためのセミナー

- ① 2021年 6月17日 ② 2021年11月19日 ③ 2022年2月3日

◇教員見学説明会

- ① 2021年 6月26日 ② 2021年11月 6日